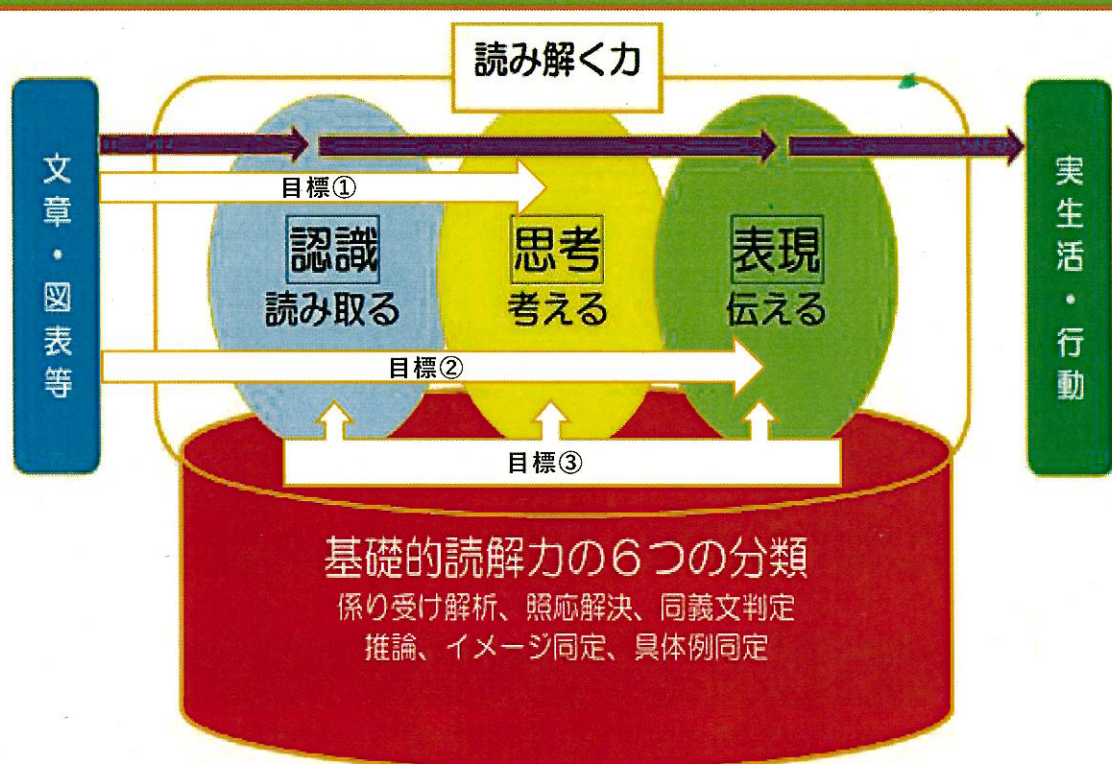


「読み解く力」を育成する学習機会
(参考：文部科学省 読解力向上プロジェクト)



【目標①】 テキストを理解・評価しながら読む力を高める機会

- 読む目的を明確にすること
- テキストを肯定的に捉えて理解すること (情報の取り出し)
- テキストの内容や筆者の意図などを解釈すること
- テキストを自分の経験や知識と関連づけて様々な視点から理解、評価すること (視点の例：内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさ)

【目標②】 テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める機会

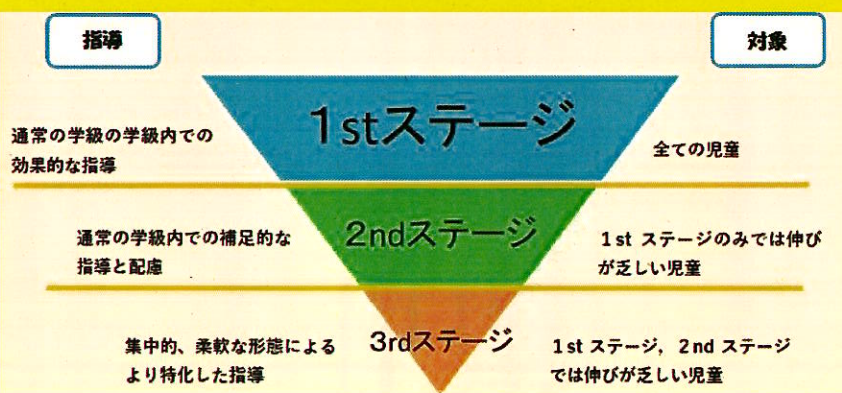
- テキストを利用して自分の考えを書くこと (例：内容を要約、紹介する、再構成する、自分の知識や経験と関連付けたり意味付けたりする、自分の意見を書く)
- 授業のまとめで自分の考えを80字から200字程度で簡潔に書くこと
- テキストを読んで理解することによって得られた知識等について、実生活や行動と関連付けて書くこと
- 自分の書いたものを推敲することを通じて読む力を育てること

【目標③】 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会

- 読書活動を推進すること
- 新聞や科学雑誌など実用文を含め、様々なジャンルの読み物に親しませること
- 授業の中で、自分の意見を述べたり、書いたりすること (目的や条件を明確にして自分なりの考えを述べる、論理的・説明的な文書文章に対する自分の意見を書く、人の話を聴いて、それに対する自分の考えや問いを述べたり書いたりする等)

読みの力を身に付ける指導
(MIM多層指導モデルの活用)

MIMとは
MIM(Multilayer Instruction Model)とは、全体から個へ、全ての子どもたちに効果的な指導を隅々まで届けようとする通常学級における学習指導モデル



通常の学級の多様なニーズのある子どもたちに、特殊音節を中心とした語の正確で素早い読みや流暢性のある読みの実現を支えるために、本区では、小学校第1・2学年児童についてMIMを活用した読みの力を身に付ける指導を行っている。

MIMの指導法は次の3つのステージがある。

1stステージでは、子どもたちにつまずきが多くみられる「しっぽ」等の小さい「っ」(促音)、「おうさま」といった伸ばす音(長音)、「キャベツ」等の小さい(ヤユヨ)(拗音)等に見られる「特殊音節」を含む言葉も、速く正確に読めるようにするために、視覚化や動作化(特殊音節に応じて手を動かす等)を用いて指導する。(全体指導)

2ndステージでは、通常の学級の斉指導に加えて、毎月行われるチェックテストで十分に理解できていないと考えられる子どもたちに対して補足的な指導を行う。(少人数指導)

3rdステージでは、2ndステージの指導を行っても十分な伸びが見られない子どもたちに対して授業中や授業外の時間に補足的、集中的に個に焦点をあてた指導を行う。(個別指導)

【重点校等の取組例】

- ・小学校では、低学年だけでなく、全学年で毎月MIMを実施し、子どもたちの読みについての実態を把握し指導に生かしている。
- ・朝の時間や帰りの時間等に、簡単な語彙に関する学習や、国語等の授業において、拗音、拗長音カードを作り、言葉づくりゲームを行っている。
- ・特別支援学級でも活用し、児童・生徒の読みの力を伸ばしている。
- ・中学校では、MIMを活用し補足的な指導を行うとともに、教員がMIMを体験する研修を行い、普段の教科指導に生かしている。